

演題名	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund による乳用牛の下痢症集団発生事例		
発表者氏名	中島 純子	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>平成 23 年 5 月、管内の酪農家において下痢、発熱を呈した搾乳牛 1 頭の下痢便から <i>Salmonella</i> Schwarzengrund(SS)を分離。立入検査で同居牛 8 頭が下痢、発熱、また 1 頭が流産していたことを確認。飼養牛全頭および塵埃等環境中のサルモネラ検査を実施したところ、成牛 34/46 頭 (74%)、子牛 3/3 頭 (100%)、環境 4/23 検体 (17%)から SS を分離。対策として畜舎消毒、生菌剤または抗菌剤投与を実施。その後の検査で SS を分離した成牛は 6 月に 43/46 頭 (93%)、8 月に 43/43 頭 (100%)で改善がみられなかったが、12 月には 6/40 頭 (15%)に減少し臨床症状も沈静化。子牛については分娩直後から高い感染率を示したため、治療を積極的に行い 2 回連続 SS 分離されなかったもののみを哺育センターに移動するなどまん延防止対策を図った。既報の SS と比較して感染力、成牛への病原性が強いことが認められ、畜舎消毒の方法、設備の改善を再検討するとともに子牛の感染経路を調査中。</p>			